

科目名	オーケストラ I～VIII	形態	演習	開講期	春・秋
担当教員	後藤 龍伸、橋本 眞介、上田 仁	単位	1	年次	1, 2, 3, 4

＝授業科目の目標＝

授業を通して演奏技術を高め、同時に他人の音を聴きながら合奏することの大切さを学び、音楽の楽しさや作曲家の描いた緻密な世界を表現する面白さを、共有できるようにつとめる。学習内容な、卒業後プロの演奏家や指導者としても活動できるようになるための、社会参加や音楽現場に即したものを旨とする。

＝履修の条件と学習の方法＝

アンサンブル能力を高めよう、という自覚をもつてのぞんでください。できるだけ遅刻・欠席の無いよう、こころがけること。課題曲はかならず予習すること。

＝授業内容＝

(春・秋)

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 それぞれの楽器の特性（音域など）に関する知識を深める。調律（ピッチ）について研究する。
- 3回 楽譜の読み方をきわめる（スコアリーディングを含む）。書き込みの仕方を習得する。
- 4回 フレージング（旋律の歌い方、起伏の作り方）を研究する。
- 5回 正しいリズムを習得する。
- 6回 作品にふさわしいテンポを設定する。
- 7回 調性およびハーモニー（和声）を研究する。音程を作る。
- 8回 フレージングとハーモニーの組み合わせによる、旋律の流れとカデンツを感じ取る。
- 9回 作品の形式（ソナタ形式など）を把握する。
- 10回 作曲者についての知識をふやす。
- 11回 作品の成立について研究する。
- 12回 作品が生まれた時の時代背景をさぐる。
- 13回 作品の他の分野との関連性（文学・美術など）について探究する。
- 14回 演奏中に生じる困難なパッセージを克服する。
- 15回 全体の流れをつかむ。

＝成績評価の方法と評価の基準＝

試験は行わない。与えられた楽曲への取り組み方（事前にスコアを勉強し、自分の役割を理解し、独奏曲と同等に修練を積み重ねる）や授業態度（音質音色と選びぬいてリハーサルにのぞみ、技術的・音楽的に高いレベルを目指して演奏し、かつ他者の音をよく聴き、指揮者の要望を的確に表現する）がその場にふさわしいかどうかを鑑み、評価する。

＝テキスト（必携）＝

特になし